

霞ヶ浦医療センターを受診された患者様へ

- *当院では、下記の臨床研究を実施しております。
- *研究は全て当院倫理審査委員会の審査を受け、病院長の許可を受けております。
- *本研究の対象者に該当する可能性がある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合また質問等おありになる場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。
- *もし、診療情報提供をご了解いただけない場合においても、皆様の病院サービスご利用について不利益が生じることは全くございません。
- *研究はあくまで日常診療から集積された既存の診療情報を利用するものであり、新たに患者の皆様へ何らかの負担が生じることはございませんので、ご安心ください。

研究課題名 (承認番号)	本邦における卵巣癌 (上皮性腫瘍) に対する妊孕性温存治療に関する実態調査 (30-20)
研究責任者の氏名 (部門)	新井ゆう子 (産婦人科)
研究の対象 (期間)	2009年1月1日から2013年12月31日までの間に、卵巣癌と診断され妊孕性温存を目的とした治療を受けられた15~39歳の患者さん
研究の目的	日本ではがん患者さんの妊孕性温存 (妊娠する能力を残す) 治療に対する一定の指針がないため、がん治療における妊孕性温存治療の現状を調査して、最先端の治療を普及し、医療体制を整備することを目標としています。
研究の概要	卵巣癌と診断された患者さんに対しては、一般的には子宮、付属器 (卵管・卵巣)、リンパ節などを摘出する手術を行います。しかし、挙児希望の強い若い患者さんの一部には子宮と健側の卵巣を温存する妊孕性温存治療が行われています。しかし、術式や長期予後、妊娠に至る経過、妊娠が成立した時の転帰などの大規模調査は今まで行われていません。上記年代の卵巣癌患者さんは増加傾向で、今後妊孕性温存治療が選択される機会は増えていくと思われるため、大規模調査を行い今後の管理法の確立を目的として本研究が計画されました。
研究に使用される項目	手術時年齢、手術前結婚歴、手術前妊娠既往、手術前月経歴・月経異常、手術前挙児希望の有無、手術前CA125値、手術前の卵巣予備機能検査施行の有無とその種類、初回手術実施日、手術方法、術後進行期、病理組織分類、術後化学療法の有無、治療後卵巣予備能、術後不妊期間、治療後結婚歴・月経歴・月経異常、治療後挙児希望、治療後妊娠の有無、妊娠時合併症の有無、妊娠転帰、分娩形式、分娩週数、再発の有無、再発日、再発時治療、再発時の妊孕性温存治療の有無、最終生存確認日、最終生存確認時の転帰
個人情報の保護について	本研究で取り扱う患者さんの情報は、個人情報をすべて削除し、第3者にはどなたのものかわからない形で提供されます。患者さんの情報と個人情報を連結させることはありません。
共同研究機関の有無 (名称、責任者氏名)	研究代表者 聖マリアンナ医科大学 産婦人科教授 鈴木 直 分担協力者 聖マリアンナ医科大学 産婦人科 吉岡範人 Tel:044-977-8111 (内線3327) e-mail:smuobgyl@marianna-u.ac.jp
備考	